

高齢期の単身女性の2人に1人が貧困という現実について「わくわくシニアシングルス」の大矢さよ子代表に話を聞きました。

女性の貧困

わくわくシニアシングルス

大矢さよ子代表に聞く



高齢期を迎え、自分に目を向けた時、はたと気付きます。生きていけないんじゃないか。

りも高く、高齢期に差は広がります。75歳以上の女性の28%、4人に1人は貧困です(図参照)。1人暮らしの高齢女性(65歳以上)は46%と2人に1人にも上ります。

女性の低年金

高齢女性の貧困の要因に、女性の低年金があります。

私たちは中高年齢期のシングル女性でつくる団体です。シングルマザーも含め、生きることに奮いっ闘いの日々を送ってきまし

た。子どもは巣立び、私たちが中高年齢期の年金では生活できない」「老後どうやって生き残ればいいのか」「精気がなくなったらもうマアツ」

「こんなことを聞いてきたのに年金では生活できない」「老後どうやって生き残ればいいのか」「精気がなくなったらもうマアツ」



「受心できない年金制度」と訴える全国本年金組合の女性たち(国会前)

相対的貧困率 世帯の所得がその国の等価可処分所得の中央値の半分以下の貧困線(1.7万円)に満たない状態。

背景に低い年金と賃金



●男性では、最も貧困率が高いのは、80歳以上、次は15-19歳。
●女性では、高齢期(70歳以上)の貧困率が最も高い。

ずっと非正規で働き、生計を立ててきたことを難題を女性に委ねることで続けた場合、老後は国民年金だけという人も多し。国民年金の平均は女性で月の万15円が追加の生活を難しくしている。日本の社会保障や税制度は「扶養する一扶養される関係」に夫婦を頼っています。命を賭して目につなぐケアの役割として働き去りにされてきました。

今より貧困へ

就職氷河期世代(おむね1999年〜2004年に卒業)は、新卒からずっと非正規雇用できた人も多し。この世代が高齢期に突入する20年後には、高齢者が今より貧困に陥ることは容易に想像できます。

貧困は地続き、連鎖しています。高齢女性の貧困が内包する問題は、私たちがたけの問題ではありません。後継世代のためにも声を上げたい。